

## 研究活動報告(アルファベット順)

2012年(1月1日から12月31日)における専任教員の研究活動歴である。ここに掲載されているものは、大阪女学院大学・短期大学研究活動委員会の依頼に応じて、各専任教員が自己申請したものに限定されていることを付記する。研究活動歴は以下のように分類される。

氏名,(専門領域), I.著訳書, II.学術論文, III.その他の著作(研究ノート, ニュースレター, 報告書, 雑誌, 新聞等), IV.学会発表, V.その他の発表(シンポジウム, 講演, 放送等), VI.学会および公的な機関の委員, VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

**Bramley, David** (ブルムリー・デビッド) [ELT Materials, Communicative Language Teaching, Task Based learning, Vocabulary]

### I. 著訳書

- (1) New Steps to Success in the TOEIC Test Listening Work book 1. January 2012. Bramley, D. E. & Hirokazu Nakai
- (2) New Steps to Success in the TOEIC Test Listening Work book 2. January 2012. Bramley, D. E. & Hirokazu Nakai
- (3) New Steps to Success in the TOEIC Test Listening Work book 3. January 2012. Bramley, D. E. & Hirokazu Nakai
- (4) New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 350. April 2013. Bramley, D. E. & Hirokazu Nakai
- (5) New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 450. April 2013. Bramley, D. E. & Hirokazu Nakai
- (6) New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550. April 2013. Bramley, D. E. & Hirokazu Nakai

**智原 哲郎**(ちはら・てつろう) [言語能力評価, 英語教育, 大学教育]

### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 短期大学第三者評価委員会 評価員グループ責任者 2012

**Cornwell, Steve** (コーンウェル・ステイブ) [Education and TESOL]

### III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) The Revival of BELTA; Professional Development in Bangladesh, (reprint) Explorations in Teacher Education, Vol. 20, issue 2, Dec. 2012, joint work

### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) JALT2012 Making a Difference, JALT, Hamamatsu, Sept. 9, 2012
- (2) Five-minute Activities, AJET/Osaka Board of Education, Osaka (Abiko), Dec. 6, 2012
- (3) JALT2013 Learning is a Lifelong Voyage, JALT, Kyoto, Dec. 15, 2012

### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) JALT, Director of Program, continuing from last year-1/1/2012 through 12/31/2012 and into 2013
- (2) IAFOR (International Academic Forum), Advisory Board, Local Conference Chair, continuing from last year-1/1/2012 through 12/31/2012 and into 2013
- (3) JALT Journal, Editorial Advisory Board member, continuing from last year-1/1/2012 through 12/31/2012 and into 2013
- (4) The Language Teacher, Editorial Advisory Board member, continuing from last year-1/1/2012

through 12/31/2012 and into 2013

夫 明美(ふ・あけみ)〔第二言語習得〕

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 研究ノート『Pūnana Leo を通して「言語保持」について考える』 教員養成センター紀要2号  
2012年3月発行 単著
- (2) 書籍紹介「ヒトはいかにしてことばを獲得したか」 正高信夫・辻幸夫 共著 大修館書店  
教員養成センターニュースレター 2012年10月発行 単著
- (3) 巻頭言 Seeking for knowledge and wisdom 教員養成センターニュースレター 2012年4月  
発行 単著

Ⅳ. 学会発表

- (1) Identity transformation through EFL teaching practicum, New Development in Linguistic  
Pragmatics, University of Lodz, 2012年5月26-28日

Fujimoto, Donna (フジモト・ドナ)〔Teaching English as a Foreign Language / Intercultural Studies〕

I. 著訳書

- (1) Agreement and disagreement: Novice language learners in small group discussion, Lambert  
Publishing Co. (in press)

II. 学術論文

- (1) Challenging mainstream thinking of fluency: Its definition and assessment; in 2011 PanSIG  
Conference Proceedings (published Spring 2012); Japan Association of Language Teaching  
(JALT)

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) Contrast Culture Method Training at ICU; Society for Intercultural Education, Training and  
Research (SIETAR) Newsletter, Fall 2012

Ⅳ. 学会発表

- (1) Process THEN product: Student-produced magazines; 11<sup>th</sup> Pan SIG Conference; Hiroshima  
University; June 16, 2012
- (2) A pechakucha panel on doing Conversation Analysis; 38<sup>th</sup> JALT conference, October 13, 2012

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) Contrast Culture Method Training Workshop for Rotary Peace Fellows, International Christian  
University, Jan. 27, 28, 2012
- (2) Contrast Culture Method Training Workshop for international graduate students, Aoyama  
Gakuin University, Sept. 27, 28, 2012
- (3) Contrast Culture Method Training Workshop for Rotary Peace Fellows and JICA participants,  
International Christian University, Nov. 23, 24, 2012

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) SIETAR Kansai (Society for Education, Training and Research) Program Chair, Jan-Dec. 2012
- (2) JALT Pragmatics SIG, Program Chair, Jan-Dec 2012

Johnston, Scott (ジョンストン・スコット)〔Internationalization of campuses and courses〕

II. 学術論文

- (1) "Internationalizing campuses and curricula: Some current innovations from the United States."  
*Ryugaku: Explorations Study Abroad*, Vol. 5 (3), November 2012, p. 2-10, Individual

#### IV. 学会発表

- (1) “Short-term language study: Finding out what you do not know.” Japanese Intercultural Institute (JII) Annual Conference 2012, Shirayuri College, Tokyo, November 11, 2012.

香川 孝三(かがわ・こうぞう)〔労働法・アジア法〕

##### I. 著訳書

- (1) “Japan” in Towers Watson Data Services ed., 2011 Employment Terms and Conditions –Asia Pacific, Towers Watson Data Services, February 2011, pp. 2421-272, 共著
- (2) 『兵庫県労働運動史—昭和50年代から平成元年(上・中・下) 兵庫県発行, 2012年3月, (監修と序章を執筆)

##### II. 学術論文

- (1) 「ベトナムのジェンダー」川島典子・西尾亜希子編『アジアの中のジェンダー』ミネルヴァ書房, 217-235頁, 2012年5月
- (2) 「アジア諸国のワークライフバランス」季刊労働法237号, 122-132頁, 2012年6月
- (3) 「ミャンマー(ビルマ)における労働組合法の意義」季刊労働法238号, 148-158頁, 2012年9月

##### III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) Case Comment, X and Others v. Japan IBM Ltd., Supreme Court (Second Petty Bench), Judgment, 22 July 2010, International Labour Law Reports, vol. 30, pp. 115-122
- (2) 「巻頭言 インフォーマルセクター従事者の生活をいかに保障するか」労働法律旬報1767号, 4-5頁, 2012年5月
- (3) 「ノウハウをめぐる法律問題」LDノート1126号, 32-33頁, 2012年6月
- (4) 「判例評釈・大病院勤務医師の臨床等からの排除と損害賠償責任—兵庫医科大学事件」ジュリスト1444号, 128-131頁, 2012年8月
- (5) 「書評・多賀太編著・揺らぐサラリーマン生活—仕事と家庭のはざま」日本ジェンダー研究15号, 133-135頁, 2012年9月
- (6) 「講演記録・企業と人権—国際基準を踏まえて」世界人権宣言大阪連絡会議ニュース346号, 2-5頁, 2012年9月
- (7) 「香川ゼミコメント、日本の産業の空洞化を避ける対応策を検討」IMF・JC304号, 21頁, 2012年9月
- (8) 「公開研究会紹介・人権と国際共生のありかた」国際共生研究所通信6号, 2-3頁, 2012年10月
- (9) 「アジアボランティアセンターと私」AVC編「アジアの風・最終号」5頁, 2012年11月
- (10) 「2012年度の人権教育講座を実施」大阪女学院ハイライト165号, 9頁, 2012年12月
- (11) 翻訳「ミャンマー労働組織法」(神尾真知子, 斎藤善久, 藤川久昭と共同)季刊労働法239号, 149-155頁, 2012年12月

#### IV. 学会発表

- (1) 「Can Japan Contribute to Promote Freedom of Association and Collective Bargaining in Asian Countries?」Biannual Conference of Asian Association of Labour Law, Faculty of Law, Beijing University, China, 2012年12月

#### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 講演「労働契約法」IMF・JC労働リーダーシップコース, 関西セミナーハウス, 2012年1月17日
- (2) 講演「企業と人権」世界人権宣言大阪連絡協議会主催人権学習会, 阿倍野市民学習センター, 2012年6月21日
- (3) 講演「Dr. Tokichi Masao and Thai Law」Faculty of Law, Thammasat University, Thailand, 2012

年9月4日

- (4) 講演「企業と人権」ダイキン工業株式会社, 2012年11月7日
- (5) 研究報告「ミャンマーの政治経済と労働法」アジア労働法研究会, 労働研究研修機構, 2012年12月7日
- (6) 研究報告「ミャンマーの政治経済と労働法」関西国際産業関係研究所研究会, 同志社大学, 2012年12月8日
- (7) 研究報告「ミャンマーの政治経済と労働法」大阪女学院大学国際共生研究所研究会, 2012年12月12日
- (8) 模擬授業「日本とアジアの関係——食文化を中心として」西宮今津高校, 2012年12月11日

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本ジェンダー学会 副代表
- (2) 日本労務学会 理事・学会賞審査委員
- (3) アジア法学会 理事・学術奨励賞審査委員会委員長
- (4) IMF・JC労働リーダーシップコース 副校長・運営委員
- (5) 社団法人関西国際産業関係研究所 理事・主任研究員
- (6) 国際京都学協会 常務理事
- (7) 竹文化振興会 理事
- (8) 京都生涯教育研究所 理事
- (9) 宝ホールディングス株式会社 監査役
- (10) 宝酒造株式会社 監査役
- (11) Asian Society of Labour Law, Member of Executive Board

#### VII. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 「東アジアにおける非典型雇用の法的・実証分析」 科研費基盤研究(B) 研究分担者(代表 藤川久昭青山学院大学教授) 2011年～2013年
- (2) 「ミャンマー労働組合法の民主化と経済発展に果たす役割」(研究代表・香川孝三) 公益財団法人労働問題リサーチセンター 2012年～2013年

梶原 直美(かじはら・なおみ)〔キリスト教思想史〕

#### II. 学術論文

- (1) 「不可能を可能に変えるもの—オリゲネス『祈りについて』序文(1-2, 6)における知理解ととして—」, 『神學研究』(関西学院大学神学研究会) 59号, 2012年3月。(単著)

#### III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 書評「荒井献・大貫隆編訳『ナグ・ハマディ文書・チャコス文書 グノーシスの変容』(岩波書店, 2010年)」, 『キリスト教史学』(キリスト教史学会) 66集, 2012年7月。(単著)

#### IV. 学会発表

- (1) 「女子大学において有意性が認められた死生教育展開の一例」, 日本臨床死生学会, 於: 女子聖学院中学・高等学校, 2012年11月23～24日。

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) キリスト教学校教育同盟(1998年4月より現在まで: 大学部会関西地区委員)
- (2) キリスト教学校教育同盟(2002年4月より現在まで: 中央教育研究委員)
- (3) 全国大学チャプレン会(2010年7月より現在まで: 理事)

加藤 映子(かとう・えいこ)〔言語習得, コンピュータを利用した教育〕

#### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 講演「これからの学びのカタチ」, Apple Computer Appleと教育 AcadeMiX, 於: 東京 六本木

アカデミーヒルズ, 2012年3月10日

- (2) 「The Very Hungry Caterpillar はらべこあおむしで読み解く日米教育事情」 高大連携授業, 於: 大阪府立花園高校, 2012年6月28日
- (3) “It Begins with One: Community Changes” Apple Computer, ADE Global Institute 2012, 於: Ireland, Cork, the Fota Island Resort, 2012年7月20日
- (4) 講演「デジタルネイティブ世代の学びのカタチ」 ダイワボウ情報システム, Mac isLand 2012, 於: 東京ベルサール秋葉原, 2012年8月22日
- (5) 「国際・外国語」大阪女学院高校1年生対象レクチャー, 於: 大阪女学院高校, 2012年11月9日

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 言語科学会 運営委員
- (2) コンピュータ利用協議会 国際交流委員会委員
- (3) ADE (Apple Distinguished Educator)
- (4) ADE Asia Institute board member

#### 小松 泰信(こまつ・やすのぶ) [図書館情報学]

##### II. 学術論文

- (1) 初年次教育における小論文作成過程の質的研究: 情報リテラシー教育に求められる学習資源と支援, 共著, 2011年3月, 大阪女学院短期大学紀要(41)
- (2) 情報リテラシー教育におけるeラーニング化とパブリック・クラウドの利用: その組織的運営と授業評価について, 単著, 2012年4月, 京都精華大学紀要(41)

##### III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 書評: ブックビジネス2.0-ウェブ時代の新しい本の生態系-, 2011年6月, 図書館界 63(1)
- (2) 桃山学院大学における図書館情報学教育方法論の再検討: 図書館情報学教育のフィロソフィーの検討と教育サービスのあり方に関する再考, 共, 2012年8月, 桃山学院大学総合研究所紀要 38(1)
- (3) 情報共有社会における情報リテラシー教育: タブレット端末利用による学習環境の変容, 共著, 2013年3月, 大阪女学院短期大学紀要(42)
- (4) 「iPadを活用した全学情報リテラシー教育と学習支援情報の共有」, 2013年3月, 京都大学高等教育研究開発推進機構: 第19回大学教育研究フォーラム予稿集

##### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「ユビキタス・ラーニングの進化と展開: OJUにおけるSmart Campusの創造」, 2012年8月, 教育IT最前線
- (2) 「大阪女学院大学の教育戦略: Smart Campusの実践から」, 2012年11月, UCHIDA, 大学・高校実践ソリューションセミナー
- (3) 「私立短大図書館の運営実態と今後の図書館サービスのあり方等に関するアンケート調査: 図書館を拠点とした教員との協働による学習支援に関する研究」, 日本私立短期大学協会: (中間報告), 2013年2月

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本私立短期大学協会 図書館情報委員会委員

#### 黒澤 満(くろさわ・みつる) [国際法, 国際関係論]

##### I. 著訳書

- (1) 『軍縮問題入門(第4版)』(編著) 東信堂, 2012年10月, 編著, 314頁, 執筆「序章 軍縮の現状と課題」(1-21頁), 「第1章 核兵器の削減」(23-45頁), 「第4章 非核兵器地帯の設置」

(107-125頁)

## II. 学術論文

- (1) "Prospect for WMD Disarmament and Non-Proliferation," Republic of Korea, Ministry of Foreign Affairs and Trade, *10<sup>th</sup> ROK-UN Joint Conference on Disarmament and Non-proliferation Issues*, January 2012, individual work, pp. 121-127.
- (2) "Reducing the Role of Nuclear Weapons," *Osaka University Law Review*, No. 59, February 2012, individual work, pp. 77-96.
- (3) "Nuclear Disarmament after New START," 大阪女学院大学紀要第8号, 2012年3月1日, pp. 91-104, 単著, 査読
- (4) 「新START条約後の核軍縮に向けた諸提案とその評価」『新START後の軍縮課題—日本にとっての意味合いの検討—』日本国際問題研究所 軍縮・不拡散促進センター, 1-15頁, 単著, 査読
- (5) 「核兵器の役割低減と国際法」『国際法外交雑誌』第111巻第3号, 2012年11月, 1-25頁, 単著, 査読

## III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「平和・軍縮」『imidase Library (2012)』集英社, 2012年2月, 単著
- (2) 「核安保サミット閉幕:核物質管理守られた」『毎日新聞』2012年3月28日, 単著
- (3) 「核兵器廃絶研究センターへの期待」長崎大学核兵器廃絶研究センター『開設記念シンポジウム報告書』2012年4月, 単著
- (4) 「新しい核ガイドラインの作成」世界の潮流:核兵器のない世界, 『大阪女学院大学国際共生研究所通信』第5号, 2012年5月, 単著
- (5) 「核軍縮に関する国際情勢(19):核兵器廃絶への道筋」『平和の風』第19号, 9-11頁, 2012年8月, 単著
- (6) 「核兵器廃絶への3つのアプローチ」世界の潮流:核兵器のない世界, 『大阪女学院大学国際共生研究所通信』第6号, 2012年10月, 単著

## IV. 学会発表

- (1) 「核兵器の役割の低減—核兵器のない世界を目指して—」国際法学会2012年度(第115年次)春季大会, 龍谷大学, 2012年5月12日

## V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「世界の核軍縮動向」第21回長崎市平和推進専門会議/日本非核宣言自治体研修会, 神奈川県相模原市, 2012年2月8日
- (2) "Nuclear Disarmament after New START", 大阪女学院大学学内研究会, 大阪, 2012年2月15日
- (3) 「核燃料サイクルに関するワークショップ」(コメンテーター)日本エネルギー問題委員会基本問題委員会, 大阪, 2012年3月24日
- (4) "English for Nuclear Safety and Security: An Intercultural, Cross-Disciplinary Model for Bridging Language Proficiency and Content Mastery", (Commentator), *Osaka School of International Public Policy*, Osaka University, April 26, 2012.
- (5) 「核軍縮・不拡散」平成24年度軍縮・不拡散講座, 日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター, 東京, 2012年9月20日
- (6) 「国際共生とは何か—平和で公正な世界へ」大阪女学院大学国際共生研究所平和・人権研究会, 大阪, 2012年10月3日
- (7) 「核軍縮」(コメンテーター)NPT体制等貢献事業研究委員会, 東京, 2012年11月12日
- (8) 「核不拡散」「核セキュリティ」(コメンテーター)NPT体制等貢献事業研究委員会, 東京, 2012年12月2日
- (9) 「日本の核軍縮政策」(コメンテーター)外務省との意見交換会, 東京, 2012年12月2日

- (10) 「米ロによる核軍縮」「核兵器の役割低減」「消極的安全保証」「核兵器のない世界構想」「核兵器禁止条約」軍縮・不拡散体制に関する調査研究会, 東京, 2012年12月2日
- (11) "Issues on a NEA-NWFZ", (Moderator and Commentator), Developing a Comprehensive Approach to a NEA-NWFZ, Workshop I, Nagasaki, December 7-8, 2012.
- (12) 「核兵器なき世界への流れの今と明日」非核政府を求める会『核兵器禁止条約交渉か、核抑止への固執か』シンポジウム, 東京, 2012年12月22日

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本軍縮学会 会長
- (2) 世界法学会 監事
- (3) 日本国際問題研究所 軍縮・不拡散促進センター 客員研究員
- (4) 長崎市平和推進専門会議 委員
- (5) Editorial Board of the Nonproliferation Review Member
- (6) 核戦争防止医師会議 (IPPNW) 大阪府支部 特別顧問
- (7) 国立大学法人長崎大学核兵器廃絶研究センター 顧問
- (8) 独立行政法人日本原子力研究開発機構核不拡散科学技術フォーラム 委員

馬淵 仁(まぶち・ひとし) [異文化間教育, 多文化共生社会論, 教育社会学]

#### I. 著訳書

- (1) 「オフショアプログラム」, 『比較教育学事典』, 東信堂, pp. 69-70, 2012年6月, 共著

#### IV. 学会発表

- (1) 「多文化(共生)主義の政策的課題と多文化教育における葛藤—アメリカ合衆国における調査が示唆するもの—」異文化間教育学会第33回大会, 於: 立命館アジア太平洋大学, 2012年6月10日
- (2) 「多文化教育と移民政策の現況—アメリカ合衆国における理念と模索—」日本比較教育学会第48回大会, 於: 九州大学, 2012年6月16日

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本国際文化学会 常任理事 2012年度
- (2) 日本国際文化学会 紀要編集委員 2012年度
- (3) オセアニア教育学会 会長 2012年12月～

#### VII. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 日本における多文化教育の構築に関する研究—外国人児童生徒と共に学ぶ学校教育の創造 科学研究費補助金 基盤B 2012年度

前田 美子(まえだ・みつこ) [比較・国際教育, 開発教育, 国際協力, 理科教育]

#### I. 著訳書

- (1) 「科学教育におけるジェンダー」, 菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編『ジェンダーと国際教育 開発—課題と挑戦』, 福村出版, (pp. 160-174), 2012年4月, 単著
- (2) 「マケレレ大学」「青年海外協力隊」, 日本比較教育学会編『比較教育学事典』, 東信堂, (p. 243, 364), 2012年6月, 単著
- (3) 「近代教育形成における伝統文化の位置づけ—ポストコロニアル時代の批判的検討」, 澤村信英・内海成治編『ケニアの教育と開発—アフリカ教育研究のダイナミズム—』, 明石書店, (pp. 76-91), 2012年12月, 単著

#### II. 学術論文

- (1) "Financing Corruption? Aid Money and Teachers' Practices in Cambodia", *NORRAG NEWS*, No. 47, April 2012, Individual work

- (2) 「カンボジアの教育セクターにおける不正行為—教員の自分史による調査から—」, 『第23回国際開発学会全国大会報告論文集』, 2012年12月, 単著

#### IV. 学会発表

- (1) “Teachers' insight into effective math lesson: A case study in South Africa”, Southern African Association for Research in Mathematics, Science and Technology Education Conference, Lilongwe, Malawi, 18<sup>th</sup> January 2012.
- (2) 「科学教育とジェンダー—国際協力の視点から—」, 第24回大阪女学院大学平和・人権研究会, 於: 大阪女学院大学, 2012年3月6日
- (3) 「科学教育におけるジェンダー」, 日本比較教育学会第48回大会ラウンドテーブル, 於: 九州大学, 2012年6月15日
- (4) 「途上国の授業文化に関する研究: 南アフリカ・ザンビア・カンボジアでの算数授業観の調査を中心に」, 日本比較教育学会第48回大会, 於: 九州大学, 2012年6月16日
- (5) 「南アフリカ・ザンビア・カンボジアの授業文化に関する比較研究—算数授業へのコメントから教員の授業観を探る—」, 日本教師教育学会第22回大会ラウンドテーブル, 於: 東洋大学, 2012年9月9日
- (6) 「カンボジアの教育セクターにおける不正行為—教員の自分史による調査から—」, 第23回国際開発学会全国大会, 於: 神戸大学, 2012年12月1日
- (7) “Pervasive corruption practices in the Cambodian education sector”, The 3<sup>rd</sup> East Asian International Conference on Teacher Education Research, East China Normal University, Shanghai, December 7, 2012

#### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「カンボジアの教育と日本の支援」, JICA関西主催2012年度教師海外研修・事前研修(講師), 於: JICA関西国際センター, 2012年7月7日

#### VI. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「教員の不正行為に関する研究—カンボジアを事例として」, 科学研究費補助金 基盤研究C, 研究代表者, 平成21~22, 24~25年度
- (2) 「途上国の授業文化に関する研究: 生徒観・教師観・授業観を中心に」, 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究, 研究分担者, 平成22~23年度
- (3) 「青年海外協力隊に参加した現職教員の意識変容に関する研究」, 科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究, 研究分担者, 平成24~26年度

McCarty, Steve (マッカーティ・スティーブ) [Bilingualism, e-Learning, Japan]

#### II. 学術論文

- (1) 「バイリンガリズム(二言語併用)の概念と観点」, 『子ども未来紀行: 学際的な研究』, 2012年2月, 単著
- (2) 「日本におけるバイリンガル子育ての可能性」, 『子ども未来紀行: 学際的な研究』, 2012年3月, 単著
- (3) “What is the Academic Life? 1. General Answers to Essential Questions.” *Education India Journal*, 1 (3), 6-12, 2012年8月, 単著
- (4) “Analyzing Purposes of Bilingual Education.” *Child Research Net: Language Development and Education*, 2012年8月, 単著
- (5) “Analyzing Types of Bilingual Education.” *Child Research Net: Language Development and Education*, 2012年9月, 単著
- (6) “Analyzing Cases of Bilingual Education.” *Child Research Net: Language Development and Education*, 2012年9月, 単著



- (7) “What is the Academic Life? 2. The Idea of the University.” *Education India Journal*, 1 (4), 52-65, 2012年11月, 単著

### Ⅲ. その他の著作 (研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「教育におけるグローバリゼーション：河原俊昭氏とステイブ・マッカーティ氏によるパネルインタビュー」, *Ryuugaku: Explorations in Study Abroad*, 5 (3), 13-18, 2012年11月, 共著
- (2) “Study Abroad Perspectives and Educational Globalization: A panel interview with Toshiaki Kawahara & Steve McCarty.” *Ryuugaku: Explorations in Study Abroad*, 5 (3), 19-24, 2012年11月, 共著

### Ⅳ. 学会発表

- (1) “Analyzing Types of Bilingual Education in Japan and the World.” 全国語学教育学会JALT Osaka Back to School Mini-Conference, Osaka Gakuin University, 2012年4月22日
- (2) “How Bilingualism Informs Language Teaching.” JALT 2012 International Conference, Act City, Hamamatsu, 2012年10月14日

### Ⅴ. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) “Introduction to Japan.” 国際協力機構JICA, 日本国際協力センター (大阪), 2012年1月19日
- (2) “Japanese People and Society.” 国際協力機構JICA, 関西国際センター (神戸), 2012年9月19日

### Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) World Association for Online Education, President (世界オンライン教育学会, 会長), 1998年～2007年, 2012年～現在に至る.
- (2) Child Research Net, Advisory Board Member, 2001年～現在に至る.
- (3) ベネッセ コーポレーション Worldwide Kids English, メーン監修, 2006年～現在に至る.
- (4) Marketing Competition Japan, External Advisor (ソーシャルメディアによる全国コンペの顧問, 審査員), 2012年～現在に至る.

中井 弘一 (なかい・ひろかず) [英語授業実践学, 英語授業研究]

### Ⅲ. その他の著作 (研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「英語科教員の成長と教員養成課程の課題」, 『大阪女学院大学紀要8号』, 2012年3月, 単著
- (2) 「英語教材の開発に関する一考——その基盤となる考え方と工夫——」 『大阪女学院大学教職課程機関誌OJU教職活動報告・研究vol. 2』, 2012年3月, 単著

### Ⅴ. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「一英語教育における授業デザイン力について」 兵庫県立尼崎小田高等学校教員講習, 2012年2月27日

### Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 関西英語教育学会 理事
- (2) 兵庫県立国際高校 文部科学省指定「英語力を強化する指導改善の取組」協力委員

中西 美和 (なかにし・みわ) [臨床心理学]

### Ⅰ. 著訳書

- (1) 「ゲシュタルト療法のスーパーヴィジョンを受けて ゲシュタルト療法と私の成長」, (倉戸ヨシヤ) 『ゲシュタルト療法入門』, 金剛出版, (pp. 177-186), 2012年12月30日発刊, 単著

### Ⅱ. 学術論文

- (1) 「ラケット感情と基本的構えとの関連」, 『同志社心理』 第58号, 2012年3月, 共著

### Ⅴ. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「故郷から離れたことにより不適応を呈した女性のロールシャッハテストに基づく事例検討」, 関西ロールシャッハ研究会第383回自由クラス, 於: ちゃやまちアプローズタワー,

2012年6月16日

- (2) 「ゲシュタルト療法と若手の臨床実践—医療、大学院教育、発達障害者支援—」日本心理臨床学会第31回秋季大会、於：愛知学院大学、2012年9月14日

#### Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本臨床ゲシュタルト療法学会、常任理事、2010年～2012年

#### 西井 正弘(にしい・まさひろ) [国際法]

##### I. 著訳書

- (1) 『判例法学[第5版]』、有斐閣、315頁、2012年4月、共編著

##### Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「国際共生研究所2011年度講演会『環境問題講演会—国際共生の観点から』」、大阪女学院大学国際共生研究所通信第5号、2012年5月7日、2-3頁、単著
- (2) 「保健・衛生分野を巡る国際協力の歴史と現状」、大阪女学院大学国際共生研究所通信第6号、2012年11月29日、1頁、単著

##### Ⅳ. 学会発表

- (1) 図書紹介*Synergies in Minority Protection: European and international Law perspectives* Edited by Kristin Henrard and Robert Dunbar, Cambridge Univ. Press, 2008, pp. 462, 国際法研究会、於：京都大学法学部、開催日2012年5月19日
- (2) 「国際連合人権理事会(HRC) 普遍的定期審査(UPR)：エジプト第1回」、世界人権問題研究センター研究第1部共同研究会、於：京都市・世界人権問題研究センター会議室、開催日2012年7月22日

##### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「国際結婚の陥穽—一人の越境移動と国際関係法」高大連携模擬授業、於：大阪府立佐野高等学校、2012年1月26日
- (2) 「“You and I”の世界—英語で国際関係を学ぶ」高大連携模擬授業、於：岡山市立岡山後楽館高等学校、2012年5月18日
- (3) 「国際結婚の陥穽—国際関係法とは何か」オープンキャンパス模擬授業、於：大阪女学院大学、2012年7月8日
- (4) 「国際結婚の陥穽—国際関係法とは何か」高大連携模擬授業、於：兵庫県立須磨友が丘高校、2012年7月12日
- (5) 「国際結婚の陥穽—国際関係法とは何か」オープンキャンパス模擬授業、於：大阪女学院大学、2012年8月26日
- (6) 「領土紛争から地球環境問題まで—国際法の役割と限界」高大連携模擬授業、於：兵庫県立尼崎小田高等学校、2012年11月7日

##### Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 環境法政策学会 理事 2003年6月～
- (2) 世界法学会 理事 1996年5月～
- (3) 国際法学会 評議員 1997年10月～2012年9月30日
- (4) Development of International Law in Asia(DILA), Councilor & Vice-Chairperson, 2012年1月1日～2017年12月31日
- (5) 京都勤労者学園 顧問 2011年6月～

奥本 京子(おくもと・きょうこ) [平和学, 紛争転換学, 非暴力介入論, 平和ワークにおける芸術アプローチ]

#### I. 著訳書

- (1) 「ホーポノポノとは：アニメーション『鬼退治したくない桃太郎』, (平和教育アニメーション・プロジェクト) 『みんながHappyになる方法：関係をよくする3つの理論』 平和文化, (pp. 15-20), 2012年2月8日, 単著
- (2) 「平和的手段による紛争転換」, (友松篤信) 『グローバルキャリア教育：グローバル人材の育成』 ナカニシヤ出版, (pp. 69-75), 2012年3月20日, 単著
- (3) 『平和ワークにおける芸術アプローチの可能性：ガルトゥングによる朗読劇*Ho'o Pono Pono: Pax Pacifica*からの考察』 法律文化社, 2012年3月31日, 単著
- (4) 翻訳(ドキュメンタリー DVD, 上映にあたっての注意事項, 各日本語字幕) (Director: Allison Lund, Producer: Cynthia E. Cohen) 『Acting Together on the World Stage: Performance and the Creative Transformation of Conflict』 New Village Press, International Center for Ethics, Justice, and Public Life at Brandeis University, 2012年9月, 共訳

#### II. 学術論文

- (1) 「紛争転換と芸術：動態的平和を模索して」, 『平和研究』 39号, 2012年10月10日, 単著

#### III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「トランセンドとは？(理論)」「私メッセージとは？(理論)」, 平和教育アニメーションプロジェクト ウェブサイト <http://www.peacevideo.net/index.html>, 2012年2月, 単著
- (2) 「東北アジア地域平和構築インスティテュート(NARPI) について：2012年8月, 広島にて夏季実践トレーニング開催」, 『非暴力平和隊・日本(NPJ) ニュースレター』 第43号, 2012年6月1日, 単著
- (3) 「平和も生きることも政治的いとなみ」, 『大阪革新懇だより』 第161号, 2012年6月10日, インタビュー
- (4) 「NARPI夏季平和実践トレーニングを開催」, 『朝日21関西スクエア会報』 第145号, 2012年6月, 単著
- (5) 「平和人材育成プログラム：2週間にわたる実践的な訓練」, 『公明新聞』 日刊第6面, 2012年8月7日, インタビュー
- (6) 「『平和ワークにおける芸術アプローチの可能性』 を出版」, 『朝日21関西スクエア会報』 第147号, 2012年9月, 単著
- (7) 「2012年度春季研究大会概要 部会IV 奏でる平和, 祈る平和：沖縄精神文化の平和創造力にふれる」, 「東北アジア地域平和構築インスティテュート(NARPI) 報告」, 『日本平和学会ニュースレター』 第20巻第2号, 2012年9月25日, 単著
- (8) 「Playing, Prayers and Peace: Touching the Power of Peace Creation in Okinawa's Spiritual Culture」, 『Peace Studies Bulletin』 No. 31 (November 2012), 2012年11月, 単著
- (9) 「平和と芸術の関係について」 アートミーツケア学会企画, 2012年12月3日, 森口ゆたか氏と森下静香氏によるインタビュー

#### IV. 学会発表

- (1) “The Arts-based Approach in Conflict Transformation: Based on the TRANSCEND Theory”, International conference on “Peace, War and Conflict Transformation”(中国平和学会第3回大会), 於：Shaanxi Normal University (陝西師範大学, 西安, 中国), 2012年4月22日
- (2) 「平和を感じ、考えるためのアートワーク」, アジアHWH (Healing the Wounds of History) 研究会, 於：京都キャンパスプラザ, 2012年9月28日
- (3) 「平和ワークにおける芸術アプローチ」, くらし学際研究所, 於：神戸市勤労会館, 2012年10月3日

- (4) “Historical and Cultural Stories of Peace: An Arts-based Approach to Conflict Transformation and Reconciliation”, 異文化コミュニケーション学会関西支部 (SIETAR Japan Kansai Chapter), 於：高槻市立総合市民交流センター, 2012年11月3日
- (5) 「Dynamic Peaceと芸術」(応答者として), 日本平和学会 平和と芸術分科会, 於：三重県総合文化センター, 2012年11月23日
- (6) 「Dynamic Peace and Art that Reveals and Highlights Conflict」, Art and Peace Commission, IPRA (International Peace Research Association), 於：三重大学 環境情報センター, 2012年11月25日

#### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「トランセンドワークショップ」, 新潟国際情報大学 国際交流インストラクター養成プログラム, 於：新潟国際情報大学, 2012年1月6日
- (2) 「平和教育アニメーション・プロジェクト・ワークショップ(ファシリテーター養成用)」, 平和教育アニメーション・プロジェクト, 於：大阪女学院大学, 2012年1月11日
- (3) 「平和教育アニメーション・プロジェクト・ワークショップ(一般用)」, 平和教育アニメーション・プロジェクト, 於：大阪女学院大学, 2012年1月27日
- (4) 「平和教育アニメーション・プロジェクト・ワークショップ(一般用/トレーナー養成用)」, トランセンド研究会, 平和教育アニメーション・プロジェクト, 於：大阪女学院大学, 2012年4月13日
- (5) “Arts Approaches to Community-Based Peacebuilding”, Mindanao Peacebuilding Institute Summer Training, 於：フィリピン・ミンダナオ・ダヴァオ, MPI, 2012年5月28～6月1日, 共同ファシリテーター：Babu Ayindo氏
- (6) 「<対立>をどうやって解決するか：アニメを使った平和学」, 大阪女学院大学・短期大学オープンキャンパス, 平和教育アニメーションプロジェクトのイベント, 於：大阪女学院大学, 2012年6月17日, 学生アシスタント：想本絵理氏
- (7) 「奏でる平和、祈る平和～沖縄精神文化の平和創造力にふれる～」, 日本平和学会 春季研究大会部会IV, 於：沖縄大学, 2012年6月24日, 報告者：久万田晋氏, 安里英子氏, コール+レスポンス/音のワーク：佐藤社広氏, ファシリテーション：奥本京子
- (8) 「紛争転換ワークショップ」, 東北芸術工科大学 芸術文化論(芸術と平和学) 講座, 於：東北芸術工科大, 2012年7月17日
- (9) 「平和ワークにおける芸術アプローチの可能性」, 東北芸術工科大学大学院 こども芸術教育原論特別講義, 於：東北芸術工科大学, 2012年7月17日
- (10) “Historical and Cultural Stories of Peace”, NARPI Summer Training, 於：広島・湯来 YMCAみのち研修所, 2012年8月20～24日, 共同ファシリテーター：片野淳彦氏
- (11) 「平和アニメ&ピースセッション」, 大阪社会フォーラム, 平和教育アニメーションプロジェクト, トランセンド研究会, 日本平和学会関西地区研究会, 於：エルおおさか, 2012年9月16日, 共同ファシリテーター：想本絵理, 高部優子
- (12) 「平和学ワークショップ」, コリア国際学園 (KIS, Korea International School), 於：KIS
- (13) “NARPI, Dynamic Art and Citizen Artists”, The 2012 Aspen Cultural Diplomacy Forum: The Art of Peace-building and Reconciliation, PLENARY SESSION VI: Art of Peace-building and Reconciliation: Cultures of Peace, the Aspen Institute (アスペン研究所), 国際基督教大学, 日本国際基督教大学財団, 於：国際基督教大学 Dialogue House, Conference Room, 2012年10月24日, モデレーター：Jacqueline Wasilewski, 共同パネリスト：Hong Fan, Clement Price

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国際トランセンド 認証トレーナー 2000年11月26日～現在に至る
- (2) 国際トランセンド 東北アジア地域コンビーナー 2006年～現在に至る

- (3) トランセンド(平和的手段による紛争転換)研究会 会長 2008年11月24日～2012年12月
- (4) 同上 平和と芸術委員会委員長 2010年12月～現在に至る
- (5) 同上 地域委員会 NARPIプロジェクト・リーダー 2010年12月～現在に至る
- (6) 非暴力平和隊・日本 理事 2003年1月31日～現在に至る
- (7) 日本平和学会 平和と芸術分科会 設立・責任者 2005年6月4日～2012年2月
- (8) 同上 副責任者 2012年2月～現在に至る
- (9) 財団法人大阪国際平和センター(ピースおおさか) 企画運営委員(展示専門部会) 2007年4月1日～現在に至る
- (10) 同上 運営協力懇談会委員 2007年8月12日～現在に至る
- (11) NARPI(Northeast Asia Peace Research Institute) 運営委員 2009年～現在に至る
- (12) ACTION Asia Leader 2010年11月～現在に至る
- (13) 平和教育アニメーション・プロジェクト 呼びかけ人 2011年～現在に至る
- (14) 日本平和学会 第20期理事 2012年1月～現在に至る
- (15) 同上 第20期渉外委員会副委員長 2012年2月～現在に至る
- (16) 同上 第20期関西地区研究会代表 2012年2月～現在に至る

#### Ⅶ. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 「人間関係のケア学としての紛争解決学の日本における確立のための基盤研究」 科学研究費基盤研究(C) 平成24～26年

関根 聡(せきね・あきら) [社会学, 家族社会学, 福祉社会学, ジェンダー論]

#### Ⅱ. 学術論文

- (1) 「看護学生における性役割意識の一考察 2」, 『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢13号』, 2012年3月1日, 単著

#### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 八尾市人権ふれあい部人権政策課主催 教員研修会講師(講演)「人口減少社会における、男女平等教育・男女共同参画の重要性」 八尾市立曙川南中学校(2012年8月3日)
- (2) 茨木市健康福祉部高齢福祉課主催 「いばらきシルバーカレッジ:現代社会を読み解くコース」講師(講演) 茨木市立生涯学習センターきらめき「女性が長生きすること(高齢期に起こる出来事と女性問題)」(2012年10月28日)

#### Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大阪市男女共同参画審議会 委員 2009年8月～2013年8月
- (2) 高槻市男女共同参画審議会 委員 2001年7月～2013年11月
- (3) 八尾市男女共同参画審議会 副会長 2010年9月～2014年11月
- (4) 高槻市男女共同参画センター男性セミナー企画運営委員会 委員長 2002年4月～2013年3月
- (5) 学校法人池田五月山教会学園 評議員 2008年4月～2012年3月

関根 秀和(せきね・ひでかず) [大学教育論, 社会学]

#### V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「新しい第三者評価に臨むにあたって-評価の視点-」, 一般財団法人短期大学基準協会評価員候補者対象説明会, 於:東京, 文京学院短期大学, 2012年5月31日
- (2) 「私立大学の教育・研究充実に関する研究会(短期大学の部)」運営委員長, 於:東京, アルカディア市ヶ谷, 2012年11月13日

#### Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大学教育学会常任理事
- (2) 近畿都市学会評議員

- (3) キリスト教文化学会理事
- (4) 大学評価・学位授与機構評議員
- (5) 一般財団法人短期大学基準協会副理事長, 第三者評価委員会委員長
- (6) 日本短期大学協会常任理事
- (7) 大学評価・学位授与機構 大学ポートレート(仮称) 準備委員会委員

**Swenson, Tamara** (スウェンソン・タマラ) [mass communication, media studies, content-based instruction, TEFL, writing]

#### I. 著訳書

- (1) *Sustainable futures: An EFL reader*. Osaka: Osaka Jogakuin Press. Editor. November 2012 (単著)
- (2) *A human rights reader: Materials for reading, writing & discussion*. Osaka: Osaka Jogakuin Press. Editor. September 2012 (単著)
- (3) *Proceedings of the 2011 Colloquium on language teaching*. Tokyo: Temple University Japan Press. Co-Editor. February 2012. (共著)

#### II. 学術論文

- (1) Intersections between ethnocentrism and media attention among Japanese and American university students. *Osaka Jogakuin University Research Journal*, 8, 43-63. (with B. Visgatis) (共著)

#### III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「教科書がiPadの中に！ -iBooks教材導入-」。大阪女学院 *Highlights*, 165, 12月6日 (単著)

#### IV. 学会発表

- (1) *Kamishibai* (digital and paper-based) for intimate presentations and discussions. Temple University Japan Applied Linguistics Colloquium, February 5, 2012 (共著)
- (2) Narrative frames to assess overseas programs. Japan Association for Language Teaching International Conference, Shizuoka, Japan, October 12, 2012 (共著)
- (3) The (almost) paperless classroom: iPads for all. Japan Association for Language Teaching International Conference, Shizuoka, Japan, October 14, 2012 (単著)

#### VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) Teacher Education & Development, JALT-SIG, (Japan Association for Language Teaching, Special Interest Group), Editor *Explorations in Teacher Education*, October 2012 to present
- (2) JALT Journal, Editorial Advisory Board Member, February 2012 to present
- (3) MediAsia, International Academic Forum, Conferences on Media in Asia, local conference chair, January 2012 to November 2012
- (4) International Communication Association, conference proposal reviewer, January 2012 to March 2012

**Teaman, Brian** (ティーマン・ブライアン) [Linguistics, Phonetics, Computer Assisted Language Learning]

#### IV. 学会発表

- (1) "Haptic movement and touch for better pronunciation." Japan Association of Language Teachers National Conference. Hamamatsu, Japan. Oct. 13. 2012
- (2) "Preliminaries to haptic integrated pronunciation." Pronunciation in Second Language Learning and Teaching, 4<sup>th</sup> Annual Conference. Vancouver, B.C., Canada. August 25, 2012.
- (3) Getting Optimal Pronunciation from English Learner Dictionaries. Teaching English to Speakers of Other Languages International Conference, Philadelphia, PA, March 31, 2012.

東條 加寿子(とうじょう・かずこ)〔英語教育, コーパス言語学, ESP〕

## II. 学術論文

- (1) “An online support site for preparation of oral presentations in science and engineering”  
*European Journal of Engineering Education*, Volume 37, Issue 6, pp. 600-608, 2012. Co-author.
- (2) “Identifying English Words and Expressions Used Frequently in a Corpus of Science and Engineering Lectures.” *Studies in e-Learning Language Education*, Volume 7, 2012. Co-author.
- (3) 「グローバルな社会に向けての理系日本語を用いたコミュニケーション」, 『工学教育2012-11』  
Vol. 60, No. 6, pp. 162-169, 2012年11月, 共著

## III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「言語活動の潮流を読む: 英語プレゼンテーション」, 『大阪女学院大学教員養成センター NEWSLETTER』 第10号, 2012年7月, 単著
- (2) 「AILA2011に参加してー第16回国際応用言語学会報告ー」『e-Learning教育研究』 第6巻, pp. 135-137, 単著

## IV. 学会発表

- (1) “OnCAL, the Online Corpus of Academic Lectures, an English language support system for university science and engineering instructors.” 2012 JSEE(Japanese Society for Engineering Education) Annual Conference (International Session), Tokyo, August 23, 2012

## VII. 科学研究費補助金等の公的研究補助を受けた研究

- (1) 「英語を介した理工系高等教育の向上を支援するシステムの開発」 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究分担者 2012年4月～2014年4月

友野百枝(とももの・ももえ)〔通訳教育, 通訳, 翻訳分野の卒業プロジェクトのプログラム開発〕

## I. 著訳書

- (1) 「通訳学 101 ～理論から実践まで～」 大阪教育図書 2012年9月7日出版 他2名との共著

## III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 大阪女学院大学紀要 第8号 2011 研究ノート “Five Years of Instructing Graduation Project (GP) in translation and interpreting at OJU”

## IV. 学会発表

- (1) 「学部通訳教育における多面的指導アプローチー通訳入門テキストの開発」 日本通訳翻訳学会 第13回年次大会 会場 京都橘大学 2012年9月8日

## VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本通訳翻訳学会 関西支部 運営委員 2012年10月1日より1年間